

○ 有限会社スカイファームおざきは、自社の牛から発生する牛ふんと地域で発生するもみ殻を混合し、自然菌のみで牛ふんもみ殻完熟堆肥を製造。

■ 国内資源の種類

■ 肥料の種類・肥料名称

■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

- ・牛ふん
- ・もみ殻
- ・おがくず
- \* 敷料として利用

- ・特殊肥料（牛ふん堆肥）
- ・名称：牛ふんもみ殻完熟堆肥
- ・販売形態
- 袋詰め(40ℓ)、バラ（2tダンブ約4㎡）、散布(約3㎡)

取組の経緯

- ・当農場では肉用牛繁殖肥育一貫経営を行っており、2016年に農場HACCPを取得、2019年にJGAP認証を取得する等、食の安心・安全や環境保全に積極的に取り組む。自社の牛（肥育牛約2500頭、繁殖牛約900頭）から発生するふん尿を原料として地域で収集したもみ殻と混ぜ合わせ、自社にて堆肥を製造。

取組の内容

- ・副資材として使用するもみ殻は、地元のJAカントリーや個人の農家から収集し堆肥と交換することで、地域資源を有効活用している。
- ・ふん尿ともみ殻を混合し、タイヤショベルで2週間攪拌(1次発酵)→ロータリープラントで1ヶ月間攪拌(2次発酵)→最終発酵を含め約5~6か月かけ製造。
- ・袋詰め堆肥(40L・約13kg/袋)も製造しており、バラ・袋詰め堆肥の直売、配達のほか、ホームセンターや卸し販売にも対応。近隣市町村へは配達も実施しており、地元を中心に堆肥を還元するため積極的に取り組んでいる。

成果

- ・放線菌等の有効菌が多く含まれており、土が団粒化しふかふかした根張りのよい土壌になる。病原菌予防にもなる。臭いもなく扱い易いと評価を得ている。

■ 作物

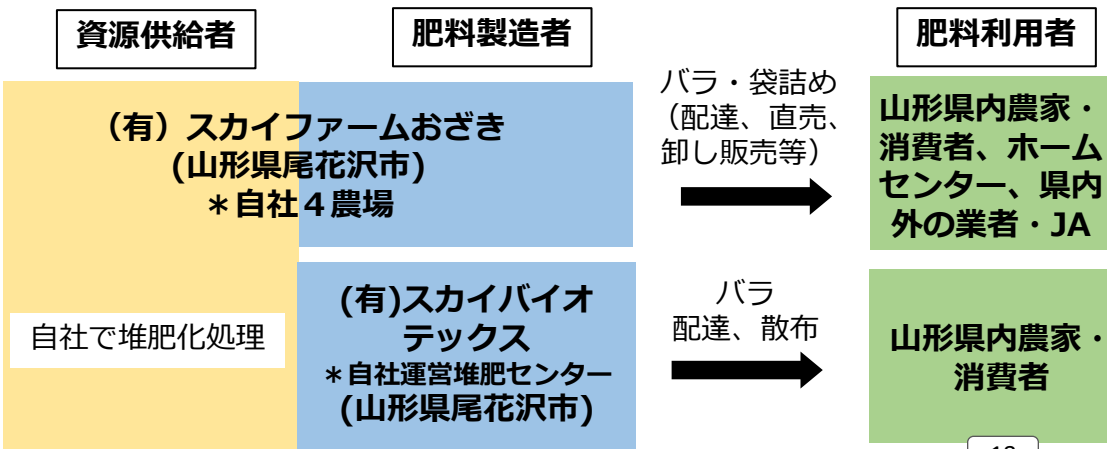
■ 主成分の含有量(%)、特徴等

- ・野菜
- ・果樹
- ・花卉
- ・水稲
- など

N	P	K	C/N比
0.75	1.4	1.8	19

・もみ殻を副資材として使用

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・肥育や繁殖牛の増頭により、ふん尿の処理量も増える事から、もみ殻の確保等、堆肥作りに必要な地域資源の確保が重要である。良質な堆肥作りが地域還元につながる。堆肥→自社田んぼ→稲わら→牛の飼料→ふん尿→堆肥と環境に配慮した循環型農業にも力を入れている。



ロータリープラント



袋詰め堆肥(40ℓ)